

# R5 前期学校評価

ア 児童の 状況	きわめて良好	自己評価Aと学校関係者評価の評価区分	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好			4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好			3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分			2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する			1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活			
児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るくあいさつをし、規律ある落ち着いた生活をしながら、主体性や責任感を育もうとしている。	前期 おおむね 良好	おおむね 良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に肯定的な評価が見られる。「あいさつ」に対する取り組み（あいさつ運動、あいさつ名人、小中合同の挨拶運動等）が児童への意識付けに繋がっている。そのことで、元気な声のあいさつが増え、いつでも元気に挨拶できる児童が増えているのと思う。</li> <li>上級生へ呼び捨てなど、言葉遣いの面で気になる点がある。後期はより子ども主体の取組につなげ、集団の一員としての自覚が高まることでさらなる成長を期待できる。小学校が目指す挨拶の姿にさらに近づくであろう。</li> </ul>
学自 校己 評 価 の 改 善 策 の 概 要 と	<p>【前期→年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、児童の大きな声や明るい声のあいさつが見られるようになってきている。学校外の地域でも自主的にあいさつができる児童も増えてきた。あいさつ3ヶ条をもとにあいさつ運動をしていることがあいさつの向上の要因と捉えている。2学期からは、次のステップとして時と場所に合わせたあいさつの仕方やいつでも、どこでも、誰にでも視点をあいさつの輪を広げていこうと考えている。また、委員会活動を通して、成章小学校が目指すあいさつの姿についても話し合っていきたい。</li> </ul> <p>【後期→(次年度)】</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1) 元気なあいさつと場に応じた言葉遣い	「あいさつ運動」(校内、小中合同、家庭への呼びかけ あいさつ+α あいさつプラン三カ条) 「元気なあいさつと返事」の日常指導	3	
2 集団生活・集団活動	(2) 集団の一員としての自覚	委員会や係での自主性を促す取組 活気ある集会活動	3	

### 【徳(心のみがく)】

- あいさつ強調週間。各学年や町内児童会毎などのグループ分けで、児童玄関前やあいさつ広場で登校する児童にあいさつのよびかけ(1)
- 小・中合同のあいさつ運動(1)(2)
- 児童集会の発表の工夫(2)



### 【1・2のデータ】

	質問事項	4	3	2	1	0	※表中の数値は%
児童	①元気よくあいさつや返事	47	32	15	6	0	4=よい がんばっている あてはまる 楽しい 3=だいたいよい ややあてはまる まあまあ楽しい 2=やや不十分 あまりあてはまらない あまり楽しくない 1=不十分 がんばり不足 まったくあてはまらない 楽しくない 0=わからない
	②責任をもって仕事	75	20	5	0	0	

	質問事項	4	3	2	1	0	※表中の数値は%
保護者	①あいさつ運動や指導は場に応じたあいさつ・返事・言葉遣いにつながっているか	39	53	6	0	2	4=よい がんばっている あてはまる 3=だいたいよい ややあてはまる 2=やや不十分 あまりあてはまらない 1=不十分 がんばり不足 まったくあてはまらない 0=わからない
	②縦割り班、学級活動や委員会活動により責任感や主体性が育てられているか	50	43	7	0	0	

	質問事項	4	3	2	1	0	※表中の数値は%
職員	①元気なあいさつと場に応じた言葉遣い	0	79	21	0	0	4=十分に達成している 3=ほぼ達成している 2=やや不十分 1=不十分 0=わからない
	②集団の一員としての自覚	14	72	14	0	0	



**ア 児童の状況**

**II 思いやりの心・たくましい心**

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
互いに認め合い高め合いながら、夢に向かって努力する豊かな人間性を育もうとしている。	前期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問、対面での活動が可能になり、地域との繋がりが戻ってきた。元気応援ボードは素晴らしく、今後も継続して欲しい。</li> <li>・校内掲示は大変明るく、一人一人の姿が見える。掲示のほかにも、児童の活躍の場や賞賛の場が多く、「思いやりの心」が育つように、道徳教育や地域の方々とふれあいの場が多く設けられている。</li> <li>・教師アンケートの4段階が少ない理由を明らかにして、後期、さらに充実した取組につなげてほしい。</li> </ul>
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳での学びの様子が見えるように道徳コーナーを工夫している。さらに継続した学習の足跡が分かるような工夫も加えながら取り組んでいきたい。</li> <li>・週1時間の道徳の時間に向けて、各学級担任が教材研究をしたことや教室掲示の道徳コーナー更新などをしたことから、道徳の時間の話し合い活動が充実し、道徳教育が推進されている。</li> <li>・コロナ禍での地域とのつながりを大切に継続してきた「元気応援ボード」のプレゼント活動に、各施設からのレスポンスがあったことで、地域に貢献しているという意識が高まってきた。</li> <li>・「夢掲示(チャレンジ+1)」をあいつつ広場に掲示することで、校内が明るい雰囲気になり来校者にも好評であった。学年末において振り返りの場を設定し、個人目標の「チャレンジ+1」に対する自己の変容を認識させたい。</li> <li>・今後も一人一人の活躍の場や賞賛の場を設定し、子どもの頑張る姿を見取り、価値付けすることで、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。</li> </ul>			
	【年度(一次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
3 広く豊かな心と自立心	(3) 思いやりの心の育成	道徳の時間を中心とした道徳教育の推進 地域の方々とふれあい(元気応援ボードの寄贈 ふれあい花壇 枝豆関連活動)	4	
	(4) 互いを認め合い、自己肯定感を高める活動	学級活動の充実 自己目標の設定とふりかえり 個人目標の掲示 一人一人の活躍の場やよさを認める学校行事や各種集会の設定	4	

**【地域と関わる(ふるさとキャリア教育)】【徳(心のみがく)】**

- 道徳コーナーの設置(3)
- 福祉施設への「元気応援ボード」等の贈呈(3)
- 児童一人一人のめあての掲示と学期ごとのふりかえり(4)
- 「成章っ子元気伝言板」の設置(3)(4)
- 児童一人一人の「チャレンジ」の掲示(4)



**【3のデータ】**

	質問項目	4	3	2	1	0
児童	③友達と仲良く	50	42	6	0	2
	④道徳の時間考えを深める	64	24	12	0	0
	⑤めあてに向かってチャレンジ	72	22	5	2	0

**【元気応援ボード贈呈の様子】**

5・6年生児童が、学校生活の様子や励ましの言葉をまとめたボードを作成し、学区内の福祉施設や労災病院へ寄贈している。施設の皆さんは大変喜んでおり、心待ちにしている方も大勢ある。コロナ禍で訪問・対面できないことから始められた取り組みであるが、地域を元気づける“地域貢献”活動の一つとして、長く続けていきたい。



	質問項目	4	3	2	1	0
保護者	③道徳、地域と一緒に活動、七夕飾り、花ボラなどは思いやりの育成につながっているか	58	37	5	0	0
	④学習や生活、スポーツ等、何かに挑戦したり自分なりに目標を決めて取り組んだりしているか	48	34	13	5	0



	質問項目	4	3	2	1	0
職員	③思いやりの心の育成	14	79	7	0	0
	④互いを認め合い、自己肯定感を高める活動	14	79	7	0	0



**【枝豆のプレゼント】**

児童が育て、十二所保育園児と一緒に収穫した枝豆を、地域の福祉施設に届けた。

**ア 児童の状況**

**Ⅲ 基礎学力**

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組む学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>活字読書離れが進む中、読み聞かせはよい試みであり、成果が読書への意欲が高いことに表れている。</li> <li>読書環境が充実していることが児童の評価にも良く表れている。ただ、子供たちが楽しみにしている読み聞かせに保護者の方の協力がなく残念である。</li> <li>基本的な学習習慣が身に付いていることがうかがえるが、学力についてはさらに高める余地があり、改善策も設定されている。</li> <li>「分かる」について、保護者、児童ともほぼ肯定的な回答であるが、大きく異なっている点もあるので検討する必要があるのではないか。</li> </ul>
	年度		

自己評価の概要と学校の改善策	<p><b>【前期(一年度)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用具の確認、授業中の姿勢やノートの書き方などを全校で確認し、学習規律を整えている。また、「学び合い名人カード」を使い、話し方と聞き方の基本的なことを確認している。さらに、伝え合い、学び合う学習まで高めているように取り組んでいる。</li> <li>主体的な学びを引き出すための、みんなで課題解決を図るチャレンジタイムを設定し、教師が意図的にコーディネートし、みんなで考えをつなぎながら学びを深める子どもを育てようとしている。学習リーダーを中心として学び合いが進められるように、発達段階に応じた学習リーダーのめざす姿を共通理解しながら進めている。</li> <li>学級文庫の活用や市立図書館司書の活用、図書室整備などで読書環境が整い、児童の読書への意欲が高い。読み聞かせを充実させたり、図書室の本の利用が進むように工夫して取り組んでいきたい。</li> </ul>
	<p><b>【年度(一次年度)】</b></p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 学習への取組	(5) 基本的な学習習慣の定着	「学習の約束」の徹底 「学び合いカード」を使った話し方・聞き方の指導 ノート指導 ノート展	3	
	(6) 基礎学力の定着と向上	みんなで課題解決を図るチャレンジタイム 学習リーダーの活用と推進 単元評価問題の活用 計画的な朝学習・風の子テストの実施 家庭学習の充実	3	
	(7) 読書活動の充実	昼読書・読み聞かせによる読書習慣の形成 図書室・学級文庫の整備 読書強調月間の選定	4	

**【知(学びを深める)】**

- 「学習の約束」や「成章学びのスタイル」を活用した指導(5)
- 学習リーダーを活用した学び合いのある授業づくり(6)
- 市立図書館司書を活用した図書室整備や読書指導(7)

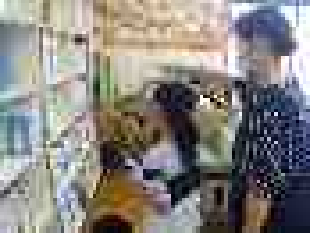
令和5年度全国学力学習状況調査結果(4月18日6年生対象)  
**【数値は正答率(%)】**  
 国語 72 [全国67.2 県72]  
 算数 68 [全国62.5 県65]  
 2教科とも全国平均、県平均を上回る結果となった。

**【学習リーダーの活用】**  
 学年の発達段階に合わせて輪番制で取り組んでいる。

**【学び合いの様子】**  
 ペア、グループ、全体と目的に応じた形態で取り組んでいる。



**【飛び出す図書館】**  
 市立図書館司書を活用して、読み聞かせやブックトーク、図書室の整備などをお願いしている。



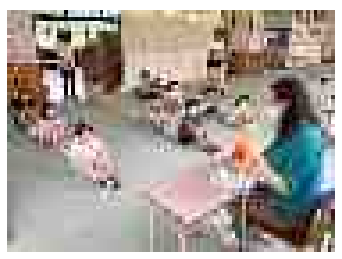
**【読み聞かせボランティア】**  
 毎月第二火曜日の朝の時間帯に地域の読み聞かせボランティアと職員で読み聞かせを実施。

**【4のデータ】**

質問項目	4	3	2	1	0	
児童	⑥勉強が分かるように教えてくれる	83	15	2	0	0
	⑦家庭学習で力が付いた	59	29	6	5	2
	⑧読書は楽しい	86	9	3	2	0

質問項目	4	3	2	1	0	
保護者	⑤授業が分かると思っているか	27	56	11	2	3
	⑥基礎・基本が身に付くように指導しているか	44	48	8	0	0
	⑦読書への関心を高めたり楽しさを味わわせたりしているか	50	44	6	0	0

質問項目	4	3	2	1	0	
職員	⑤基本的な学習習慣の定着	8	44	46	0	0
	⑥基礎学力の定着と向上	0	77	23	0	0
	⑦読書活動の充実	15	85	0	0	0



**ア 児童の状況**

**IV 健康と体力**

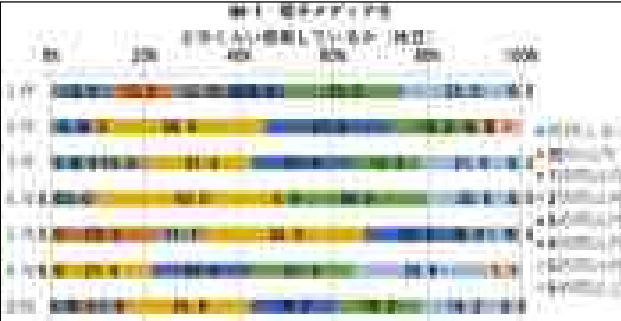
児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
食や健康、体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディア利用に関して、○時以降は～、○時間以内～という明確なきまりも大切だが、「適度・適切」という個人により基準が異なる感覚で自ら使用できる人間をゴールとして、小学校と中学校が連携し、粘り強く取り組んでほしい。メディアは使用してはいけないのではなく、使い方が問題。使い方は各自、各家庭で違いがあるため、取り組み（ルール等）を統一するのは難しいのではないか。</li> <li>「早寝・早起き・朝ご飯・ゲームの約束」について、2割の児童がやや不十分と感じている。改善策にもあるように、より重点的な取り組みが必要だと感じる。</li> </ul>
	年度			
策自己評価の概要と学校の改善	【前期(一年度)】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康的なライフスタイルの形成(特にメディアコントロール)は、引き続き課題となる。自分で気をつけて取り組んでいる子もいるが、そうでない子への指導・家庭への啓発を重点的に行っていきたい。</li> <li>今年度は、各学年で栄養士が食に関する授業を実施する。日々の給食指導では、食べ慣れない食材・メニューにも挑戦していくことができるよう、献立の工夫や教師の声かけをしていきたい。</li> <li>体力テストの点数が低い項目について、授業の導入の時間を活用して、簡単な運動を繰り返していくことで補強をしていきたい。</li> </ul>			
【後期(次年度)】				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 健康的な生活習慣・食育	(8) 健康的なライフスタイルの形成	生活習慣とメディアに関する実態調査 家庭への啓発(保健だより・給食便り) メディアコントロールの意識付け 養護教諭・主任学校栄養士による保健・安全及び食についての授業	3	
	(9) 望ましい食習慣の形成	食生活アンケートを活用した食育指導 よくかんで食べる意識付け(かみかみ週間) 掲示物(地場産物や和食等の紹介)	3	
6 体力づくり	(10) 継続的な体力づくり	マラソン運動や体力づくり運動の実施 マラソン記録会の実施 新体カテストの実施	3	

**【体(体をきたえる)】**

- ライフスタイル調査の実施(8)(9)
- 保健だより、給食だよりの発行(8)(9)
- 養護教諭や主任学校栄養士による授業(8)(9)
- マラソンタイムや体力づくり運動の実施(10)
- 新体カテストの実施(10)

**【ライフスタイル実態踏査】**  
 平日2時間以内の児童は、全校で83.3%と昨年度より減少した(昨年度87.5%)。一方、平日3時間以上の児童が1年生4人、2年生1人、3年生1人、4年生1人、5年生2人、6年生2人ずついた。帰宅～就寝までの過ごし方を考えると、長すぎる児童がいる。



**【5・6のデータ】**

	質問項目	4	3	2	1	0
児童	⑨早寝・早起き・朝ご飯・ゲームの約束	47	26	20	6	2
	⑩体力・健康な生活	58	30	5	8	0



	質問項目	4	3	2	1	0
保護者	⑧保健便りや給食便りは役に立つ情報か	40	47	8	0	5
	⑨体力づくりや健康に関する取組は効果を上げているか	48	44	6	0	2



	質問項目	4	3	2	1	0
職員	⑧健康なライフスタイルの形成	14	79	7	0	0
	⑨望ましい食習慣の形成	7	86	7	0	0
	⑩継続的な体力づくり	8	77	15	0	0



イ 学校運営の状況

V 安全・安心

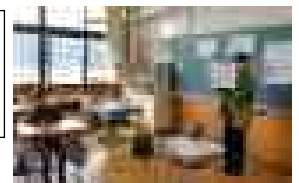
学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童が互いに認め合い、安心して学校生活を送ることができるようにしている。	前期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域や関係機関との連携が取れていて、児童にも「安全・安心」の学びの機会が設けられている。児童の安心安全を常に考えていることがうかがえる。一方で、相談しやすく複数対応する対応について、保護者が分からないと回答していることが少し気になる。</li> <li>児童の心に寄り添う姿勢を大切にしていることに、一人一人が大事にされていると感じた。今後も地域や関係機関との協体制度を大切に取り組みたい。</li> <li>熊の目撃情報や、食害、人的被害も出ているので、その辺りも注意していただきたい。</li> </ul>
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>・児童が安心して安全に学校生活を送れるように、2学期以降も児童の声に耳を傾け、心に寄り添う姿勢を大切にしていきたい。また、交通安全や安全な遊び方の指導を繰り返し行うことで、事故やケガ、トラブルを未然防止できるようにしていく。交通安全教室やなかよし登校など、地域や保護者の方の協力をお願いする活動は、早めの活動内容の周知、雨天時の対応を資料に明記するなどしていきたい。</p> <p>・交通安全協会、消防署、大館警察署をはじめ、地域の関係機関との連携の基、児童の安全・安心な生活につながる取り組みを行うことができたことで、大きな事故なく前期を過ごすことができた。今年度中に子ども110番番の家の見直しを図り、児童の安全を更に高めたい。</p>			
【後期(→次年度)】				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
7 児童理解と組織的な生徒指導	(11) 児童理解と個に応じた支援	児童との面談の実施 めくもりカード・いじめアンケートの実施と記録 保護者との面談、連携 職員による児童を語る会 委員会を生かした児童の自己肯定感を高める活動	4	
8 安全教育と安全管理	(12) 地域や関係機関と連携した安全指導	安全マップの活用 交通安全教室 避難訓練(地震・火災 不審者)の実施 登下校の時の安全指導 わらべ見守り隊活動 インターネットモラル 連絡メールを活用した安全に関わる連絡	4	

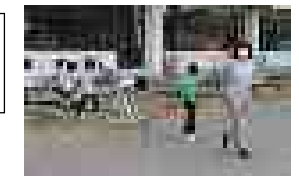
【徳(心をみがく)】 【地域と関わる(ふるさとキャリア教育)】

- いじめ防止や児童の悩み等を把握するための「めくもりカード」の活用 (11)
- P T A 個人面談の実施 (1学期末) (11)
- 児童理解や問題行動の未然防止を図る児童を語る会の実施 (11)
- 災害や不審者対応を想定した避難訓練や防災教室の実施 (12)
- 地域の団体と連携した、交通安全教室や見守り活動 (12)
- 安全マップの配付と掲示 (12)
- 生徒指導だよりの発行や緊急メールによる安全に関わる情報発信 (12)

【防災学習・避難訓練】  
年度初めに学校で必要な防災に関わる言葉や身を守る方法を学習し、後日、実際の避難訓練を行う。

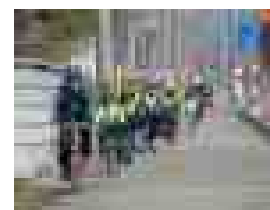


【避難訓練の実際】  
県民防災の日に合わせて、地震～火災を想定し避難を行う。今年度は電源喪失を想定して行った。



【7・8のデータ】

質問項目		4	3	2	1	0
児童	⑪学校で楽しく過ごす	62	28	11	0	0
	⑫自分の命を守る学習	83	13	3	2	0



【交通安全教室】  
大滝駐在所や交通安全協会の皆さんの協力で、公道を使った自転車の乗り方指導や歩き方指導を行う。

質問項目		4	3	2	1	0
保護者	⑩連絡帳や授業参観、個人面談は学校と家庭の連携に機能しているか	61	32	5	0	2
	⑪避難訓練、登校指導、わらべ見守り、生徒指導だよりの発行等は安全や命を守るのに役立っているか	58	40	2	0	0
	⑫相談しやすく、複数対応する体制	54	33	3	0	10

【避難訓練における体験活動体験】  
消防比内分署の協力で、消火体験や煙体験を行う。

質問項目		4	3	2	1	0
職員	⑪児童理解と個に応じた支援	15	85	0	0	0
	⑫地域や関係機関と連携した安全指導	14	86	0	0	0



イ 学校運営の状況

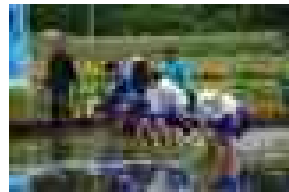
VI 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校課題を明確にし、特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの力で学び合おうという意識が育っていることが感じられるので、地域素材、人材を生かした学習は、とても大切だと思う。</li> <li>後期を迎えるにあたり、さらにチャレンジタイムを充実させた姿を、1月の授業参観で観られることを楽しみにしたい。</li> </ul>
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期(一年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで課題解決を図る学び合い「チャレンジタイム」をどの学年も設定し、共感的・協動的に学びを深めることができるよう、授業改善に取り組んできた。自分たちの力で学び合おうという意識が育ち、学び合うことのよさを感じられるようになっていく。一人一人の考えや学びの状況を見取り、それを生かしたコーディネートを工夫することで、考えをつなぎ、深める授業の実現を目指していきたい。</li> <li>各学年で教科や領域等で地域素材・人材を活用し、大館市や成章地区、学校の特色を生かした「ふるさとキャリア教育」が展開された。2学期以降も、各教科や「ふれあい学習」、「かがやき学習」などの時間において、地域素材・人材を生かして学習を展開していきたい。</li> <li>教育課程や時間割の編成を工夫することで、授業時数を確保することができた。</li> <li>学校教育目標の具現化に向けて、共通理解と共通実践は計画通りに着実に進んでいる。職員一人一人の参画意識を高めることで、さらに活発な議論が展開され取り組みに工夫が加えられると考える。</li> </ul>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 職員研修	(13) 授業改善・研修の充実	主体的・対話的な学び、共感的・協動的な学び合いのある授業の工夫 必要感のある課題設定 校内研修の充実 共通実践事項の確認と実践	3	
10 ふるさとキャリア教育	(14) 「人、もの、こと」との積極的なかわり	町探検 各施設との交流 親子でチャレンジ体験の日(9月) ふるさと学習の日(祭典) 地域との関わり(ボランティア活動の充実)	4	
11 教職員の学校経営参画	(15) 明確な経営方針・施策の提示	各指導部の方針や重点施策の提示 各指導部の提案の共通理解と実践	3	
	(16) 特色ある教育課程の編成と実施	授業時数の確保と計画的な実施	4	

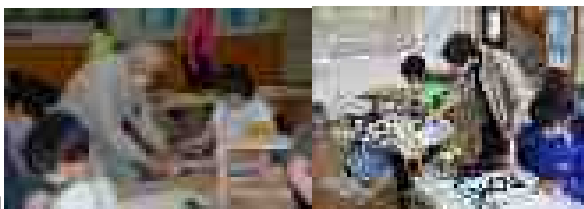
【知(学びを深める)】【地域と関わる(ふるさとキャリア教育)】

- 学び合いや振り返りを大切に授業(13)
- タブレットやICTの活用(13)
- 小中合同花ボランティア、清掃活動(14)
- 地域人材や外部団体事業の積極的な活用(14)
- 3～6年縦割りによるかがやきプロジェクト(14)

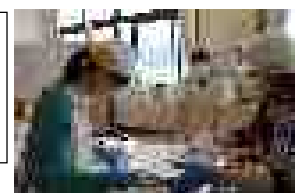


【5年生の米作り】  
地域の方々や、JAあきた北青年部の皆さんの協力による田植え体験

【地域人材の活用】  
地元企業の指導による「もの作り教室」  
教員OBIによる「書写指導」(3～6年生)



【かがやきプロジェクト】  
枝豆苗植え  
成章商品試作・試食  
枝豆キャラクター投票  
枝豆収穫  
成章スイーツ販売  
★児童が中心となって活動



【9・10・11のデータ】

		質問項目	4	3	2	1	0
児童	⑬学び合いで考える力・発表する力		58	36	6	0	0
	⑭地域のためにがんばる気持ち		63	32	4	0	1

【アユの放流】  
エコマネジメント他の協力

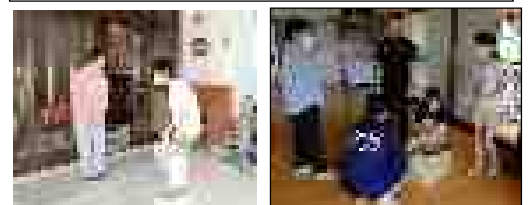


		質問項目	4	3	2	1	0
保護者	⑬考える力や発表する力が付いてきているか		55	42	3	0	0
	⑭体験活動は地域の一人という意識を育てているか		60	35	5	0	0

【タブレットの活用】  
タブレットを活用した授業

		質問項目	4	3	2	1	0
職員	⑬授業改善・研修の充実		7	86	7	0	0
	⑭「人、もの、こと」との積極的なかわり		21	72	7	0	0
	⑮明確な経営方針・施策の提示		21	79	0	0	0
	⑯教育課程の編成と実施		15	85	0	0	0

【小中合同花ボランティア・奉仕活動の様子】



イ 学校運営の状況

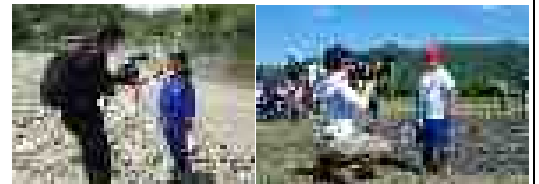
Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が保護者や地域に浸透し、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校報、学年便り、新聞、ニュース等発信する機会が多くあり、学区内外の地域の人々にも児童の活躍を伝えることができている。</li> <li>・新聞報道等で成章小の子ども達の活躍をよく目にする。地域の子も達が頑張っている姿を多くの人に見ていただけると大変うれしい。そのような発信は地域に活気を与えるのでとても良い。</li> <li>・地域の教育力の活用がよくできている。</li> <li>・枝豆収穫作業に保護者や地域の方が参加してなかったので、各町内の回覧板を活用してはどうか？</li> </ul>
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>・学校行事や各学年の体験活動などの実施について、報道各社に情報発信したことで、新聞やテレビニュースなどに取り上げられ、保護者や地域の方に大いに喜ばれた。今後も、子どもたちの活躍を積極的に情報発信し、地域や学校の魅力を伝えていきたい。</p> <p>・地域の人材について、教科学習だけでなく、特別活動、学校行事等において十分な活用が図られている。人材も、児童の家族や地域住民、地元企業など多岐に渡っている。多くの方々が、学校や子どもたちの力になりたいと考えている。協力していただく形を工夫して、地域に活気を与える学校であるよう努めたい。</p>			
【年度(→次年度)】				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
12 情報の受発信	(17) 定期的な情報の受発信	ホームページの定期的な更新 学校報・学年だより 校内掲示の工夫 タイムリーな情報発信	4	
13 地域の教育力の活用	(18) 地域人材の活用	地域コーディネーターの活用 行事や授業への協力要請 保・小・中連携	4	

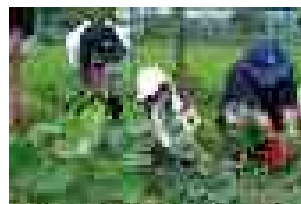
【「地域」とつながる・「地域」をつくる】

- 定期的な学校報、学年だよりの発行(17)
- ホームページ、学校報、校内掲示、地元新聞、テレビ等での子どもたちの活動の紹介(17)
- 経営の重点に合わせた子どもたちの活躍の様子が分かるボードの設置(17)
- 保・小交流、小・中連携協議会の実施(18)
- 農園活動、読み聞かせ等への協力(18)
- 正課クラブでの外部講師の活用(18)
- 親子でチャレンジ体験の日へのPTAの講師協力(18)



【テレビ等での子どもたちの活躍の紹介】

【正課クラブでの外部講師の活用】  
 タブレットクラブ(東光CS)  
 Englishクラブ(外国語活動支援員)  
 スポーツクラブ(地域の皆さん)



【保小交流 枝豆収穫】  
 十二所保育園の年長児と6年生で収穫。収穫後、つくし苑へ。

【12・13のデータ】

質問項目		4	3	2	1	0
児童	⑮地域の人やGTとの勉強、活動	77	15	3	2	3

質問項目		4	3	2	1	0
保護者	⑮学校の取組や子ども達の様子を積極的に伝えているか	58	35	3	0	3
	⑯地域の方々と協力しながら教育活動に当たっているか	45	47	6	0	2

質問項目		4	3	2	1	0
職員	⑰定期的な情報の受発信	36	64	0	0	0
	⑱地域人材の活用	23	77	0	0	0

【親子でチャレンジ体験】  
 エコリサイクル、市出前講座、地域の方々に講師に、五つのコースを設定し、親子で体験した。



【枝豆収穫】  
 豆もぎ作業や薄皮向きなどを地域の皆さんの協力を得て行うことができた。

